

## 私の職業奉仕物語

私は、住宅から始まり、事務所や店舗、公共建築物の設計・監理を生業としています。

物語は、ある肉屋さんが駅前開発のために、店舗並びに住宅を移転するという仕事から始まります。お客さんは自営業ですから、打ち合わせは、午後から夕方まで繰り返されました。基本的な計画がまとまったことから、設計前の最終確認の打ち合わせが、次の週の午後7時半となり了承したのですが、その日、事件が起こるのであります。

打ち合わせ当日、私は迷ったのであります。それは、打ち合わせの時間が午後7時半ということは、打ち合わせに2時間を要すると考えれば、打ち合わせ終了が9時半頃になるであろうと考えました。そこで、ラーメン屋でみそラーメン大盛を食べてから打ち合わせに臨んだのでした。

午後7時20分にお客様のところへ伺い、茶の間に通され静かに時を待っておりました。間もなく奥様が見えられこう言ったのであります。「食事まだなんですよ？ 今日、藤野さんが来るので、米沢牛の良いところで牛丼を作っているから一緒に食べてから打ち合わせをしましょう」ということになり、そのタイミングで「食事を終えてきた」と言えば、これから現場が始まるコミュニケーションのことを考えると、飯食ったとはとても言えないことから「ありがとうございます。いただきます」と何事も無かったように言わざるを得ませんでした。さらに、牛丼は大盛、みそラーメン大盛完食30分後の牛丼大盛は、流石にきつく、その間無言でゴチになるわけもいかず、「米沢牛はさすがにうまいですねえ」と必死の会話と共に牛丼を完食し、喉元まで届く牛丼に「ごちそうさまでした。旨かったです」とお礼を申し上げました。

すると奥様からは、「お代わりいかがですか？」との声掛けがあり、それはそれは丁重にお断りしたのであります。

私のこの話は、丁重に断れば済んだ話であったと思いますが、お互いに「相手を思いやる心」があったからこそ一件落ち着いたものと言えます。

職業奉仕の考え方は、ロータリーの目的第2に集約されており、職業上の高い倫理基準を保ち、自らの職業を天職と捉えながら高潔な心で世の中を明るくことにあります。

私は、奉仕とは「他者を思いやる心」から始まると考えます。